

会 報

東北大学教育学部同窓会仙台支部



創刊号に寄せて

東北大学教育学部同窓会

仙台支部長 雪江 美久

ここに東北大学教育学部同窓会仙台支部会報の創刊号が関係者のご努力により発行される運びとなりましたことを、同窓会員の一人として大変うれしく思います。

当仙台支部は昭和54年、当時、教育学部長を務めておられた塚本哲人先生から、教育学部同窓会の結成についてのお声かけがあり、それに応じて、初代支部長を務められた藤井黎顧問を中心とする仙台市在住の教育学部同窓生有志の皆さんが、まずは地元仙台市から支部組織の形態で結成しようということで誕生するにいたりました。以来、今日にいたるまで毎年11月に定期総会を開催し、18年にわたる年輪を刻んできております。

この間、教育学部から教員養成部門が分離独立した影響もあって、当支部組織も、わが国の動きをそのまま反映して会員数の減少化と構成会員の高齢化傾向をたどってきましたが、そのようななかであって、絶えず役員の皆様の大変な努力と会員の皆様の支援のもとに、会員相互の親睦をはかり、母校教育学部の発展と地元教育界に寄与するという本来の目的達成のためにそれなりの役割を果たしてきたものと信じています。

わが国のこれからの発展を考えると、教育界においてはいうまでもなく、各界におけるわが同窓生の活躍と母校の発展がますます期待される所であり、このような時期にあって、会員相互のコミュニケーションをはかり、組織の活性化のために必要条件である会報が発行されることはまさに時宜を得たものであり、今後の発展

が望まれる所であり、再来年にせまった教育学部創立50周年を前にして、わが同窓会のますますの発展と充実に、本会報の発行が大きな役割を果たしていくことを期待してやみません。

第 18 回 同窓会仙台支部総会のご案内

初秋の候、同窓生各位には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度下記により仙台支部総会を開催致します。今年度は、東北大学 木村 力雄 教授をお招きしご講話を戴くことになりました。

ご多用の折恐縮ですが、会員お誘い合わせの上、是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 平成9年11月24日(月)
午後3時より
- 2 会 場 パレスへいあん(265-5111)
(仙台市広瀬通り東五番丁角)
- 3 内 容 (1)仙台支部総会 14:30 受付開始
(2)講演会
演題「留学生の受入と
東北大学建学の精神」
(3)懇親会 17:00 ~ (予定)
- 4 会 費 6,000円 当日受付にて申し受けます。
- 5 申込み 同封のはがきでお願いします。
- 6 締切日 11月10日(月) 取消は11月15日迄

同窓会仙台支部結成のころ

東北大学名誉教授 塚本 哲人

支部設立のころを思い出しています。あれは確か昭和50年代の半ば、学部長を務めていたころかと思えます。その前の年、つまり昭和54年の6月には、東北大学教育学部創設30周年の記念の行事が行われ、同窓生各位の協力を得て「卒業生名簿」も出来たのでした。学部創設以来、旧帝大の歴史と伝統をもつ大学にあって、何かと苦渋の道を歩みながらも、先輩諸賢のご努力によって、教育学部が万事にわたって落ち着きを見せた時期と今に受けとめています。それだけに新興の気が満ちあふれていたと言えましょう。また、同窓会長は学部長に委嘱すると会則に明記されていて、体を整えた同窓会は活動することを必要としていました。

さらに、当時は同窓生の各分野での活躍が目立ち始めたこと記憶しています。昭和28年、同29年の第1回、第2回の卒業生の中には、他の国公立大学で部局長を務める事例を耳にするようになりました。特に、昭和30年代まで卒業生の大半を占めていた宮城県教員のうち、地元仙台市の小中学校に同窓生が多く、その校長さんに初期の卒業生が就任しているのに気付きました。そして、この人びとの力強い後ろ楯が市教委の教育長であることを知りました。その教育長は、昭和32年に修士過程を修了した藤井黎現仙台市長でした。

この事態で仙台支部は生まれました。今となっては、藤井教育長に、また、同窓生の校長さん達に何を話したかは覚えていません。ただし、仙台支部の第1回総会に招かれたばかりか、以後数回ご案内を受けて出席したこと、退官の折には講演の機会を与えられたことなどが、懐かしく思い出されます。

この3月までの仙台市教育委員会委員長のころには、元気な卒業生に接することもありました。仙台支部のますますのご発展を祈っています。

大学改革の中の教育学部

現教育学部長 不破 和彦

東北大学教育学部同窓会仙台支部が発足から数えて18周年を迎えましたことに心からお喜び申し上げます。

20世紀後半にあたる1970・80年代以降の社会は世界的な規模で急速な展開を遂げてきております。この間に、社会を支えてきた既成の制度、価値、秩序などの構築が急がれています。こうした社会の変化の中で、大学は「古色蒼然」とした体制を「伝統」という美名の下に維持してきたのが実状であったと言えます。今、大学は「社会は変われど、大学は変わらず」の姿から漸く抜け出す方向へと動きだしています。

教育学部は2年後の1999年に創設50周年を迎えることとなります。この半世紀にわたって教育学部も拡充、発展を遂げてきましたが、現在は1965（昭和40）年の宮城教育大学の創設に伴う教員養成課程の分離に次ぐ、大きな学部教育・研究組織の転換に直面しています。教育学部の改革です。この改革の基本方針は、高度情報社会、生涯学習社会、人間相互の尊重と平等を基本的な価値観に据えた共存共生社会、成熟社会などに象徴される日本社会の近未来像の実現に不可欠な専門的な教育指導者・援助者の養成と定めて、この達成を図るために必要なカリキュラムの見直し、履修方法や指導体制の再検討などを骨子に、教育学部・研究組織の全体的な再編成に取り組んでいます。

社会の変化の中で人材養成をめぐる新たな社会的な要望に、適切かつ十分に対応できる教育・研究の組織と活動を常に確保することは、教育学部にとって最も重要な任務であります。現在、鋭意取り組んでいます学部改革を達成し、社会の広範な分野・領域で活動できる卒業生（同窓生）を養成していく所存でありますので、同窓生各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、同窓生各位の益々のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げます。

同窓会仙台支部結成の回想

顧問 三浦 修一(24年入学)

忘れもしない昭和55年7月末、私は当時の仙台市教育長藤井黎先生から電話を戴いた。その内容を要約すると、東北大学教育学部長塚本哲人先生(当時)が全国に東北大学教育学部同窓会の支部を結成したいとのご要望があるので仙台支部の結成について考えてもらえないかとのことであった。それから数日後塚本先生がこのことについて直接当時の私の勤務校にお見えになられた。私は塚本先生や藤井先生の支部結成のご熱意に深い感銘を受けるとともに、私も微力ではあるが先生方のご期待にお応えしなければならないと思った。

私は早速同期生の岩淵、小野、志村、富塚、丸谷の各氏に呼びかけて支部結成の準備にとりかかった。なにせ支部結成のための予算もなく、また在仙同窓生の名簿もなかったので名簿の収集には苦勞した。さしずめ仙台支部会員を仙台市内に居住し、かつ勤務する同窓生とし、在仙の公私立学校や大学等に依頼して同窓生の名簿を送っていただき、また、教職以外の就職者についても教育学部で作成した名簿を参考にして日曜や祝日を返上して名簿の整理にあたった。

一方、規約や役員候補者の案を準備し、初代支部長を藤井先生にお願いして昭和55年11月約150名のご参加をいただき、仙台市民会館で第1回の支部総会を挙行了した。支部結成のお話をお受けしてわずか3ヵ月、準備委員の諸氏はよくも頑張ったと思う。当初私は会として些少の年会費の徴収や会報なども考えたが、まず支部の組織を固め、必要に応じて漸進的に改めた方がよいと思いなおした。また、会の性格をたんなる懇親会にとどめることなく、一つの研修の場とするため学部の先生方にただ同然の薄謝でご講演をお願いし、これが大変好評を博している。

仙台支部結成18年を迎え、役員諸氏のご努力と会員のご協力で会報を発行するまでに充実発展していることは私にとって誠に感慨無量である。

教育学部の現状と同窓会の課題

大学関係理事 北村 勝朗

東北地方において、ひいてはわが国において教育に関する研究・教育の基幹的役割を担ってきた東北大学教育学部は、これまで様々な分野への優れた人材提供という重責を果たしてきた。また、その緻密な基礎的研究から実践的研究にまで至る個性的な研究の伝統は継承され、今日に至ってさらなる発展を遂げている。これについては、今なお「真摯・篤実」と評される本学部の伝統的な学風にうかがい知ることができよう。本学部同窓会は年々確実に優れた会員を迎え、貴重な人材の蓄積を果たしてきている。発足50周年を間近に、同総会のますますの充実を希望するものである。

こうした独自の特色をもつ本学部も、変動する現代社会の中で新たな個性化を求められている。社会のニーズが多様化したことにより、本学部が社会に提供すべき人材の育成も、そうした今日的課題へ応えるようなものが求められているのである。「教育」という視点から人間を幅広く理解し、実践的に対応し得る人材の育成を目指す本学部が社会発展に果たす役割は、今後ますます重要なものとなってくると考えられる。こうした時代と社会の要請に対応すべく、本学部では学部の改革に関わる委員会を設け、長期的な計画のもと、拠点大学としての優れた改革理念を打ち立ててきている。また、カリキュラムも時代・社会のニーズに対応した形で弾力化をはかり、教育についての基礎的能力を高めるような授業科目を設け、また教育に関する高度な専門職業人の養成・再訓練の場としての大学院の教育をより広い範囲に提供するため、平成7年より大学院社会人入学制度を実施している。こうした一連の改革により本学部の一層の充実・発展が果たされることを期待するとともに、同窓会による有形無形の支援を切に希望するものである。

仙台支部役員名簿

(平成7.12～平成9.11)

顧問	藤井 黎、 24三浦 修一
	25多田 滋、 26佐々木一洋
	28永野 昌一
支部長	31雪江 美久
副支部長	29石森 幸子、 31柗澤 怜
	32菅野 政夫
参 与	24岩淵昌次郎、 24富塚 英雄
	24志村 元一、 26寺田 晃
理 事	24小野 春夫、 川井 善夫
	丸谷慶二郎
	25高橋 公正、 菊池 康雄
	静田 一、 中村 真雄
	26菊地 篤子、 三橋 亮一
	27岡崎 忠、 横山 卓夫
	28小關 幸生、 古澤 良一
	29青木 寛敏、 星 博
	30小野 正義、 小畑 博之
	31八卷 康雄、 今野 健
	菅原 教雄
	32佐々木亀三男、 久保田 明
	33高橋 正義、 菅原眞喜子
	34菱沼安太郎、 一条 紀久
	35泉 豊、 伊藤 律郎
	36正木 競、 阿部 琢也
	浅野 信廣
	37菊田 泰丸、 千葉 雅修
	38佐藤 誠、 熊谷 洋
	39群山 慶子、 鹿野 毅
監 事	25佐藤 寿郎、 宮腰 英一
大学関係理事	北村 勝朗
事務局	35伊藤 昭、 37関口 隆
	39大浪 榮一
理事会計	31木下 勢子、 34伊藤 静男
	34大庭 数江

事務局だより

会員の皆様には、日頃何かとご協力をいただき感謝申し上げます。

今年度は、会則の検討、会員名簿の整理、会報の発行、則政の健全化を図るため、次の委員会を構成しそれぞれ活動を展開しております。

会則検討委員会

委員長 31柗澤 怜、副委員長 31今野 健
25静田 一、28古澤 良一、34一条 紀久、
36阿部 琢也、37菊田 泰丸

名簿作成委員会

委員長 30小野 正義、副委員長 31菅原 教雄
25高橋 公正、29青木 寛敏、33高橋 正義、
35泉 豊、38熊谷 洋

会報発行委員会

委員長 25菊池 康雄、副委員長 32佐々木亀三男
26菊地 篤子、27横山 卓郎、32久保田 明、
39鹿野 毅、34菱沼安太郎

会計委員会

委員長 29石森 幸子、副委員長 34大庭 数江
31八卷 康雄、31木下 勢子、36正木 競、
37千葉 雅修、39群山 慶子

○会報創刊号をお届けいたします。ご多用の中、ご執筆いただきました先生方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

○第2号は来年9月発行の予定です。皆様からのご寄稿をお待ちしております。

○総会のご案内をいたしましたが、多くの会員の方々とお会いできますことを楽しみにしております。会の運営についてのお問い合わせは事務局へ。

事務局 仙台市立燕沢小学校 関口 隆

〒983 仙台市宮城野区燕沢東3-8-1

TEL・FAX 022-251-3595